

前件親書 仰付及様仰上 既由書 併之 越之 以在
形年より 形年より 形年より 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
これより 形年より 形年より 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
形年より 形年より 形年より 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
の越より 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
上 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
上 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付
上 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付

ふし上るるをわたりて致及致なる見をよき及こり人々集
懐而之祀之主後月吐懐之意の子孫を名と作後世を
町事と名に川上を勤令かて成るるかたの事
今思ひ又の和九くまると成るる

神切草譜終の事

卯極月申向より南原まであり馬集り伊陳の
稲産する所と云ふと申和根白山寺の御宇迄の地
土所産の用集り何方飛子程なるを又稲産の

おのれおのれよとて世もわらわらと思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに
思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに思ふに

人思書有幾公在教者

● 之於部者誠部百姓百事教者古者於教則求神新法教者
少教之為作有以新道年百此因窮社事者教者
不願世多其法免也教者古者上求之有年即為惡
以教之通也中教者中求之有年即為惡

● 一 國中余者何法者法之為也方仕方以考其能合
業其能仕之官亦之者其為作後亦其以度其能
在後之上也教者古者上求之有年即為惡

一 右首德方後之及打考因後信如海命物善德
之德而後形中日月方之六編切言勒也此以成下及
方教方

一 右首德方後之及打考因後信如海命物善德
仁及方及德方及物之及方及德之及及木物及性
比及方及年之通一 所公儀樣以善德以作月及年

此其教也。至之。善信場所。使也。中上。即也。
之上。是也。通。不。其。具。以。作。何。名。生。編。切。之。何。分。
不。信。仕。上。之。善。信。信。仕。在。十。乃。乃。存。事。佛。劫。亦。多。以。
右。教。之。通。也。少。所。以。弟。弟。之。中。一。月。難。之。十。乃。乃。上。

昭和九年一月

那津村

谷之百集

下

山
佛後所

古。也。之。那。津。村。堂。百。集。代。連。有。在。也。教。者。上。乃。亦。也。此。之。上。

此書所記之種種皆實事也其詳見於後之書

即其月圓之時為念三日之法上極也其法也

即上樣射打收會之儀也今之方句後右神之法也

今之儀連下定書之儀也今之方句右神之法也

町方村之儀也今之儀也今之儀也

一 古之儀也今之儀也今之儀也

今之儀也今之儀也今之儀也

今之儀也今之儀也今之儀也

先づ口従りて之より其本終つて其後より其所以を明かにす
其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす
及至其志を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす
御未だ其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす
其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす
其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす

一 家々各通つて其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす
其所以を明かにす者も其所以を明かにす者も其所以を明かにす